第４回九州大学大学院経済学府産業マネジメント専攻
教育課程連携協議会開催概要

日時：令和４年４月２日（土）
開会：午前１０時００分
閉会：午前１２時００分
場所：イースト２号館２階　E-E-２１２

（出席者）
会　　長：荻野 喜弘
構 成 員：麻生 渡、小早川 明徳、平井 彰、古田 茂美、横山　研治
　　髙田 仁（専攻長）、星野 裕志、村藤 功、目代 武史
学 府 長：大石 桂一
教　　授：五十嵐 伸吾、小城 武彦、鈴木 右文、永田 晃也、安田　聡子
准 教 授：中本 龍一、ハズウェル.C、広垣 光紀
講　　師：平野 琢
助　　教：荒木 敬充、力丸　美和

（五十音順、敬称略）

協議会次第
１．開　会
２．委員及び出席者紹介
３．学府長挨拶
４．会長挨拶
５．議　事
（１）運営経過報告
（２）質疑応答と委員の意見
６．会長総括
７．閉　会

令和４年度　意見交換の概要

1.　産業界等との連携による授業科目の開発について

・修了生組織QANとの拡大ゼミは良い取り組み。継続を。

・外部連携の強化は有効。

2.　経営環境の変化に対応した教育課程の編成、授業科目の見直しについて

・芸工連携のDBEXは良い取組み。例えば海外大学との連携も視野に入れると良い。

・リカレントは日本では遅れている。現在はAIなど新しい教育ニーズも増加しており、QBSがリカレント教育を率先し、それを積極的に発信するべき。

・近年の若者の意識の変化に注意を払って、通常は交われない人と交われる場を創り、そういった場に身を置くことで、新しい発想や自分に出会えるようにすることが重要。

・現在、新しい時代の萌芽にあり、QBSのカリキュラムが社会の変化に対応しているのか点検を。

・アジアや中国系の科目はもっと増えていて良い。

・日本の老舗企業に対して中国が高い関心を示しているので、経営学のプラットフォームで、ファミリービジネス論や老舗論を取り上げると良い。

3.　ポスト・コロナの社会人教育のあり方について

・対面教育の意義が問われる。オンライン化で知識の効率的な伝達が可能になったが、人格形成はオンラインでは出来ない。うまく使い分けを。

4.　箱崎サテライトの活用のあり方について

・学生は立地の感度が高いため、学生の利便性を損ねない工夫を。

・箱崎は生徒の通学利便性が伊都よりも向上する。文化・学問・科学技術の拠点にし、そこで九大が役割を果たすべき。

・箱崎サテライトについて、スマートイーストの方向性と連携しながら、大学全学として取組みが必要。その際には同窓会も一緒に検討に加わるべき。